

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		ネガティブをポジティブに町内会リフレーミング！	大阪府大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	町内会でゆる～くスポーツ！「ゆる部活」		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	ゆる部員		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択→	2. 学生
チームメンバー数(公開)	3名		
代表者(公開)	藤目心海		
メンバー(公開)	永易優光、美濃奈旺		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_ 応募用紙_ 具体的なチーム名_ 該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

<チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に**示してください。将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

町内会の加入率の増加をめざす

・中高生のいる家庭の町内会退会を食い止め、新たな家庭の加入促進につなげる

※以上の課題解決のために『**何**』をするアイデアか、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

1. 町内会の現状

町内会の加入率を増やして地域とのつながりを深めるため地域住民に伺ったところ、中高生がいる世帯の町内会の加入率が低いことがわかった。原因として、地域のイベントに参加する機会が少なくなるため子どもの小学校卒業と同時に退会する世帯が多いことがあげられた。子どもが小学生のときは子ども会に加入したりイベントに参加したりするため町内会に加入するが、中学生・高校生になると住んでいる地域とは異なる地域の学校に行くため、地域との関わりが希薄になる。それに加え、中高生のいる世帯が町内会に加入しておくメリットがなくなる。

大阪に住み始めて、地域のかかわりの少なさを実感した。小さな町では誰に会ってもどこに住んでいる人なのか、何をしている人なのかをほとんどの人が把握していて会う人会う人に挨拶をする。しかし、大阪では隣に住んでいる人も知らなければ、町で会った人とも挨拶もしない。地域住民とのかかわり方に違いがあった。

住民の話によると、賃貸マンションが増え、町内会や地域の行事への参加がない・マンションに表札がないため居住者がいるのかいないのかもわからない・個人情報の点などから名前や家族構成が分からない・役員のなり手がいない・町内会の行事に参加者が集まらないなど多くの課題を抱えている。町内会に加入させるためにいろいろな取り組みをしているが、加入率は減少する一方である。町内会がなくなっている地域もあるのが現状である。

2. 中高生がいる家庭の悩み事

私たち 3 人はフリースクールという活動を行う中で様々な子どもたちと関わっている。海外から日本に来たばかりで日本語の習熟度が低く、勉強でつまずいても友達に聞くことが難しい子や土日にするのがなく時間を持て余している子など、様々な理由で子どもたちはフリースクールに訪れる。「また行くね。」「次、先生に会える日いつ？」などと子どもたちから聞くと、フリースクールをすることにやりがいを感じる。また保護者としても、日本に来てから笑顔の減った子どもがフリースクールから楽しそうに帰宅してきたら行かせるよかったと思うだろう。土日に時間を持て余している子どもも、どこに遊びに行くのか分からないのではなくフリースクールで遊んでいるとわかっていたら安心できると考えられる。

文部科学省委託調査の家庭教育の活性化支援等に関する特別調査研究によると、子どもの健康や発育が中高生のいる世帯の悩みとしてあげられている。また、ベネッセの調査によると、運動不足や子どもが大人になったときに自立できるか不安という保護者の悩みや気がかりがあげられている。他にも、「なるべく良い環境で楽しみながら学びを得てほしいと感じるが、本人が興味を持った習い事、塾などに心配なく通わせられるか不安がある」という声や「スマホやゲームをしてばかりで外に行かない」という声もある。

3. アイデアの概要

このような町内会の現状と中高生がいる家庭の悩み事を同時に解決できるサービス、それが「ゆる部活」である。「ゆる部活」は中高生のいる家庭の悩み事を少しでも和らげられるだけでなく、運動したいが一緒にする人がいない人、なかなか外に出る機会がなく引きこもりがちな人、地域と関わりをもちたい人を助けられると考えられる。

「ゆる部活」とは、手軽に使える LINE を使ってサービスを構築し、イベントを開催してその運営や参加者の補助を通して、地域の繋がりを感じてもらうサービスである。これは子どもを不安なく安心して育てたい中高生のいる家庭の親と地域の人と関わりたい人をマッチングさせることができる。このサービスによって、地域のつながりの大切さを知り、町内会の退会回避や新規加入者の増加につなげる。

道具はすべて貸し出しのため手ぶらで参加できる。運動前の準備運動は準備運動と思わせないようゲーム性を持

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

たせる。例えば、ゴミ拾いをしながらウォーキングすることを準備運動にすると、サッカーなど運動自体には参加しづらい高齢者なども準備運動だけは一緒にでき、地域住民の交流する機会が確保できる。高齢者も LINE を身近に使っていると地域の方から伺ったため、公式 LINE を活用することでスケジュール管理を行う。また、町内会に加入していない人でもおためしとして参加でき、町内会加入のきっかけにする。以下で紹介するフローを通して、地域の人とのつながりの大切さを知り、町内会の退会回避や新規加入者の増加をめざす。

4. 「ゆる部活」の仕組みについて

・町内会加入者

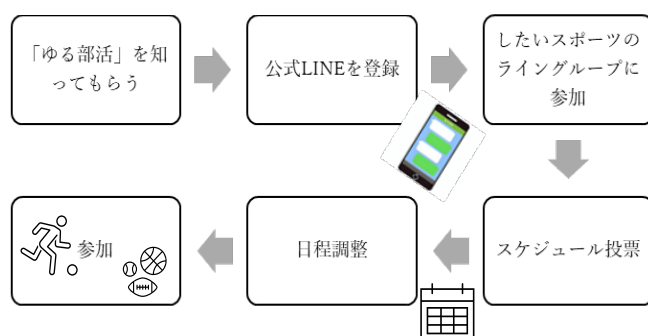
フロー1: 「ゆる部活」を知ってもらう

掲示板・回覧板・中学校などで「ゆる部活」というものを紹介する。高齢者などスマホに慣れていない人には、スマホ教室の開催時に「ゆる部活」というサービスを紹介し、公式 LINE の登録の仕方も教えて入りやすくする。紹介して「ゆる部活」に入りたいと興味を持ってもらえたら、町内会加入者用の公式 LINE に入ってもらおう。公式 LINE では、自分がやってみたい・やりたい活動のLINEグループに入ってもらおう。何個入っても、いつ入退会してもよい。公式 LINE を町内会加入者用と町内会未加入者用の2つに分けて町内会に加入している人だけが入っているLINEグループにすることでプライバシーや安全の確保につなげる。

フロー2: 公式 LINE で日程調整

LINEグループでは、投票機能やスケジュール機能を使って日程調整を行う。投票してもらうタイミングは活動する月の1か月前にする。その日程の中で参加人数が多い日を運営側が選び、他のグループと日程調整をし、月初めに町内会の公式 LINE と各活動のグループ・町内会に入っていない人用の公式 LINE に日程表をカレンダー状にして送る。日程表が送られてきてからの参加も可能にする。活動日は曜日に偏りがないようにして、参加しやすいようにする。

○町内会加入者



フロー3: 活動日当日

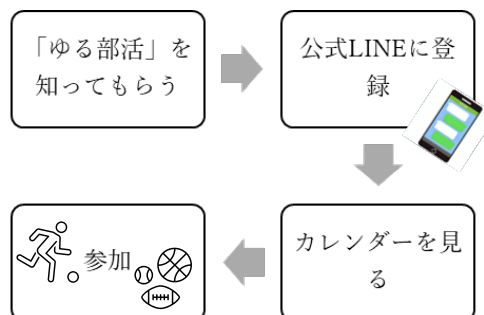
活動日当日に必要な道具は、貸し出しにして、手ぶらで来ても大丈夫ようにする。活動を体験して、活動が楽しかったら継続してもらい、楽しくなかったり自分に合わなかったりしても他にも活動があるので気軽に抜けてほかの活動に参加できる。

・町内会に加入していない人

フロー1: 「ゆる部活」を知ってもらう

掲示板・中学校・町に掲示するチラシなどで「ゆる部活」というものを紹介する。興味を持ってもらえたら町内会未加入者用の公式 LINE に登録してもらおう。

○町内会未加入者



フロー2: 参加

月初め、公式 LINE に1か月のスケジュールが送られてきたら、自分が参加したい日に参加する。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

理由1：町内会が衰退しているから

表1のように年々町内会の加入率が減少している。東淀川区の町内会加入率は令和5年4月時点では43.6%である。

また、住民の話によると、町内会を脱退するタイミングとして、子どもが小学校を卒業するとき・班長などの役が回ってくるとき・高齢になり、自分が周りの迷惑になるのではと考えるときということが挙げられた。

町内会が行事参加スタンプカード・町会新聞・子ども参加行事・声かけ運動など町内会加入促進の取り組みを行っているが、会員は減る一方、新規加入者が少ないという課題がある。

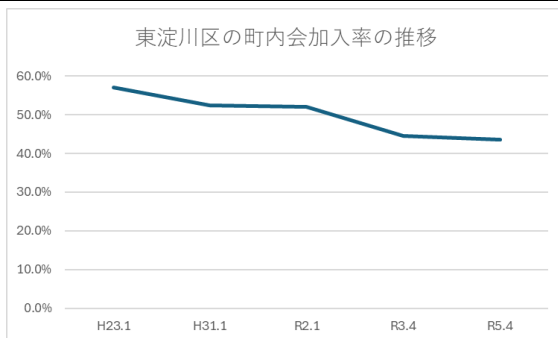


表 1 東淀川区の町内会加入率の推移

出典：大阪市地域振興会組織状況調査

（加入率 H23・H31・R元・R3・R5）

理由2：気軽に運動したい中高生がいるから

スポーツ庁の平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、運動部等に所属しない人が求める参加条件として、「好きな・興味のある種目を行うことができる」、「自分のペースで行うことができる」が男女ともに多く占めている。また、令和4年の地域運動部活動推進事業のアンケート調査結果によると、自由に参加できる雰囲気がある環境であれば、参加しやすいという回答が多くを占めている。同調査によると、学校教育から切り離し、地域のスポーツ活動に参加することで、「地域の方との関わりは大事な経験になると思う」「子どもにとって刺激となり、活力や新たな目標を持つきっかけとなり得る」「試合に出られない子も上達できるから良い」という保護者の意見があげられている。

運動部等に所属しない人が求める参加条件（中学2年生）

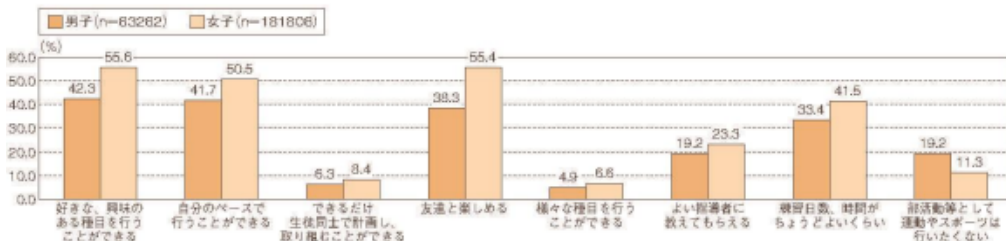


図 1 運動部等に所属しない人が求める参加条件

出典：スポーツ庁「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

理由3：地域の人とつながれる場所や機会が必要だから

内閣府の少子化対策に関する特別世論調査（平成 21 年）の子を持つ親にとってあればいいと思う活動の調査によると、「子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動」と回答したのは 60.9%、「子育てをする親同士の話ができる仲間づくりの活動」と回答したのは 49.9%である。この 2 つの回答に共通することとして、地域で気軽に相談できる活動が必要であるということがわかる。

文部科学省のアンケート調査によると運動・スポーツを行う理由として「健康・体力づくりのため」、「楽しみ・気晴らしとして」、「友人・仲間との交流として」という動機が強い傾向がある。また、現在何らかの活動に参加している者に対する活動のきっかけについての調査では、「地域の慣習で」に次いで「生活に充実感や達成感を得たいと思って」という回答が多い。他にも、厚生労働省の調査によると、近所付き合いの程度は年々減少していることが分かった。一方で、地域活動への参加について自らの楽しみを目指すことよりも、町内会や自治体の活動に参加するほうが、身近な地域の中で自らの位置づけを見つけ、積極的に諸活動の担い手となれると感じるという結果がある。

これらの調査結果から、人々は人とつながり活動することで満足感や達成感を感じ、自らの立ち位置を確認できるため人とつながれる場所や機会を求めていることがわかる。

理由4：運動したい人がいるから

スポーツ庁の健康・体力に関する意識調査によると、普段運動不足を感じるという割合は 77.9%となっている。年代別に見ると、30～50代で運動不足を感じている人の割合が高い傾向にある。しかし、運動したいと思っているが何から始めればいいのかわからないなどの意見がある。

また、仮に職場を拠点として運動・スポーツを習慣化する取り組みがあれば今より運動・スポーツを実施する頻度が増えるかという質問に対して、「増えると思う」とする割合は 43.9%だった。この調査結果から身近に運動する場があれば、運動したい人がいるということがわかる。

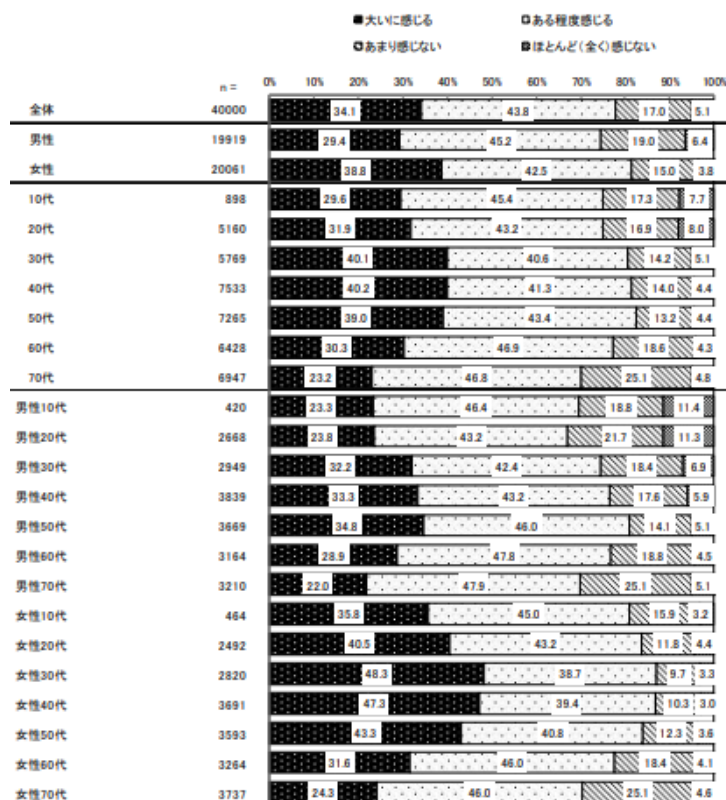


図 2 運動不足を感じるか

出典：スポーツ庁

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1.実施主体

推進主体（主催）：私たち

実現主体：町内会、小中学校の協力のもと行うことを想定

2.必要な資源

【ヒト】

1.学校の体育館や活動で使う道具を貸してくれる人

フリースクールの営業として、地域の小学校や中学校に毎月チラシを置かせてもらっているためそのタイミングで貸してもらえないか交渉する。

2.日程を調整する町内会の人

フリースクールとかかわりのある地域住民に日程調整の作業に協力していただける人を紹介してもらう。

3.「ゆる部活」の参加者

町内会に入っている・入っていない地域の人を想定

【モノ】

1.町内会に入っている人用の公式ラインと町内会に入っていない人用の公式ライン

2.活動で使う場所

- ・フリースクールの宣伝をしている小中学校に体育館や運動場を借りることができないか相談する。
- ・地域の公園などを使わせていただけないか管理している団体に問い合わせる。
- ・有料の施設を借りる。

3.活動で使う道具

- ・地域を通じて用意する。
- ・参加してくれる人のなかで道具を持っている人に貸してもらう。
- ・町内会の資金で購入する。

【カネ】

町内会加入率を促進するために町内会で行うイベントであることを想定しているため、参加費はとらず無料で行う方向で検討している。

ただ、小中学校の協力が得られず、場所を借りる費用や活動で使う道具の購入が必要になった場合は参加費を徴収することも想定しておく。

3.実施のプロセス

2025 年4月：プロジェクト設計・町内会の人への説明・小中学校に協力のお願い

5月：公式ライン開設・グループライン開設・チラシ製作

6月：近所のスーパー、駅などにチラシを置かせてもらえるかの交渉。

小中学校で「ゆる部活」紹介。回覧板、掲示板での紹介。

7～9月：参加者募集、参加者の日程調整

10月：第1回「ゆる部活」開催

11月～：随時開催

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

--